

AGRI WORK POINT

アグリ ワーク ポイント



干ばつ・病害虫に注意
しつづ茶園づくり！

茶指導販売課 菊川 響

土壌水分とかん水

雨量が少なく高温が続くと、土壌の水分が不足して落葉や枝枯れが起こることがあります。土壌水分の蒸発を防ぐためうね間に敷き草を敷き、幼木園は特にこまめなかん水が大切です。
かん水の判断基準となる土壌水分浸透率をpF値といい、通常は1.5ほどです。2.1以上になるとかん水が必要です。

J A 大井川ホームページから過去1カ月のpF値を確認できます。

トップメニュー↓営農↓J A 大井川環境
保全情報↓圃場選択↓気象データの表示



土壌改良と土づくり

土壌改良

施肥効果を高め、根の生育条件を良くする効果があります。苦土石灰やセル力などを10aあたり100kgを目安に、定期的に施肥しましょう。土壌診断で土壌の状況を確認することもおすすすめします。

深耕

うね間の土壌を深さ30cm前後まで耕し、土壌の通気性や透水性などを改善することで、膨軟性を高めます。同時に有機物や土壌改良材の施用が有効です。

深耕時期は、山間地で8月上旬から中旬、平坦地で8月下旬から9月上旬頃が適期です。茶樹の養分吸収が活発になる10、11月頃に根が回復しているようにすることで、翌年の一番茶の品質を保ちます。高温で干ばつ時の深耕は避けましょう。

病害虫の防除

① 8月中旬～

チャハマキ、チャノコカクモンハマキ、ヨモギエダシヤクは、幼虫が大きくなると薬剤効果が落ちるため小さいうちに防除しましょう。発生量が多い場合は2回防除しましょう。

② 秋芽生育期

8月中下旬頃の少し涼しくなってきた時期に、カンザワハダニが発生することがあります。発見が確認されたほ場は必要に応じて対象薬剤を散布するようにしましょう。